

格納庫800 解体工事安全祈願祭 *Hanger 800 Safety Demolition Ceremony*

October 11, 2019

374th Airlift Wing Public Affairs

横田基地で9月26日、建物(格納庫)800の解体工事安全祈願祭が同格納庫内で執り行われた。式典には、第374施設中隊司令ブラッドリー・ブホルツ中佐、副司令代理ジョージ・マツーサック氏をはじめとする日米の関係者約30名が参加した。

式典では、福生市神明神社の神職による祈祷が捧げられ、長年に渡って基地の運用を支えてきた格納庫800への感謝を伝え、これからの工事の安全と基地の平安を祈った。

建物800は、横田基地の前身である多摩飛行場の時代に旧日本陸軍によって1939年(昭和14年)頃に建てられて使用されていた格納庫で、戦後も姿形ほぼそのままに米陸軍、のち米空軍によって使用され続け、約80年に渡り現役を貫いてきた。この格納庫は、太平洋戦争、朝鮮戦争、ベトナム戦争、東西冷戦など数多くの社会的出来事の最中もその役割を果たしてきたことでも知られる。

しかし、建物の老朽化が進んだため、このほど地元の福生市教育委員会の調査協力を得て話し合われた結果、このたびの解体が決まった。基地の歴史を伝えてきた証人である建物の一つが、また基地から消えていくことに惜しむ声も。

近年では装備即応中隊の物品管理施設等として使われてきた他、米軍と自衛隊また他の同盟軍とのさまざまな演習や作戦における重要な施設の一つとして役割を担ってきた。

格納庫800は、来年3月頃までに取り壊され、その後1、2年後のうちに新しく建て替えられる予定だ。耐久性を増した新たな格納庫が、太平洋地域における戦略的重要な軸としての基地の役割の一端として、一層寄与することが期待される。

